



2007.1.15  
三国川ダム管理所発行

# ダムっ湖



あけましておめでとございます



りっちゃん

さぐり博士

さぐくん



三国川ダム管理所長

市山 健二

明けましておめでとございます。

三国川ダムの来訪者数は、平成16年の<sup>えいきょう</sup>中越地震の影響もあり最近減少傾向にありましたが、昨年10月3年ぶりにダム湖一周出来る様になったこともあり、秋の紅葉シーズンには大勢の来訪者でたいへんな賑わいでした。

三国川ダムは、安全で住みよい地域を目指し、治水・利水の役割を果たすことは勿論ですが、<sup>もちろん</sup>加えて南魚沼地域の観光資源の一つとして、多くの観光客に来ていただき、訪れる人々に喜んでいただけるダムにしたいと考えております。

来る<sup>きた</sup>2009年の「ときめき新潟国体」では「しゃくなげ湖周回ロードレース(自転車)」が開催されます。このイベントを地域の皆さんと共に盛り上げていきたいと思っています。

今、三国川ダムは冬を迎え閑散<sup>かんさん</sup>としていますが、やがて新緑の春が訪れます。今年も、四季折々のしゃくなげ湖を是非<sup>ぜひ</sup>お楽しみ下さい。

# 五十沢小学校のみんなが、第6回ダム建設功績者表彰を受賞!!

~13年もの間継続した環境美化活動が評価されました~

11月21日に南魚沼市立五十沢小学校(全校児童数99名)は、東京都千代田区にあるパレスホテルにおいて、第26回ダム建設功績者表彰を受賞しました。

なお、当日は五十沢小学校のみんなを代表し、小林校長先生が表彰式に出席されました。

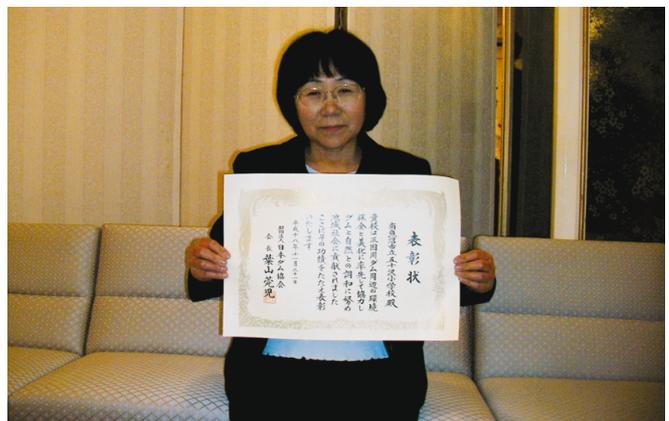
このダム建設功績者表彰は、ダムに関する用地補償、ダム事業の施工及び促進、ダム周辺環境美化活動及び、ダム工事現場専門分野において特に功績のあった個人や団体に表彰されるものです。

五十沢小学校のみんなの活動内容を簡単に紹介しますと、三国川ダムへ至る県道沿い花壇「花の丘」において、13年もの間継続してみんなで協力しながら、花の植栽・手入れを行い、土おこし・苗植え・草取り・枯れた花取りをするまでの活動を、雪解けの頃から晩秋まで活動を行っている事が、特に功績があると評価され、全国でも2点しか選ばれない、ダム周辺環境美化活動部門において表彰されました。

また2年前にも、この活動が評価され「第2回花・人・みどりの水源地域活性化大賞」において、全国で2点しか選ばれなかった「金賞」を受賞しています。



第26回ダム建設功績者表彰式



表彰状を手にする五十沢小 小林校長先生

三国川ダムは、雪解けの頃から晩秋にかけて年間約20万人以上もの人々が訪れる、南魚沼地域の重要な観光スポットです。

このような重要な観光スポットである三国川ダムで、13年間もの長きにわたり、五十沢小学校のみんなの毎年毎年苦勞して育てた花々が、三国川ダムに訪れる観光客や、地域住民の人々の目を多いに楽しませ、心を和ませています。

五十沢小学校のみんな、本当にどうもありがとう!!

三国川ダムに勤める職員一同、五十沢小学校のみんなの活動に大変感謝しています。



花壇「花の丘」看板



昨年の苗植え作業

# 第13回「地域に開かれたダム」全国連絡協議会 現地交流会が開催されました。

10月26日～27日に南魚沼市において、第13回「地域に開かれたダム」全国連絡協議会現地交流会が開催されました。同協議会は、「地域に開かれたダム」事業の指定を受けた全国37ダムの所在市町村がダムを活用し地域の活性化を図るため、相互に情報交換を行うことを目的として設立されました。この「現地交流会」も同協議会の平成18年度事業の一つとして開催されたものです。

26日は、情報交換会が行われ、三国川ダムでの「しゃくなげ湖畔を楽しむ会」の活動状況の紹介をはじめ、各ダム市町村の取り組みの報告がありました。翌27日は、トミオカホワイト美術館やしゃくなげ湖三国川ダム周辺の見学会が行われました。



現地交流会



三国川ダム見学会

## 三国川ダムの豆知識 オレンジ色の浮遊物体!その正体は?

三国川ダムの豆知識コーナー第2弾です。今回は「網場(読み方はアバです)」を紹介します。

よくダム湖へ来られた方から「湖面に浮いているオレンジ色は何ですか?」と質問されます。

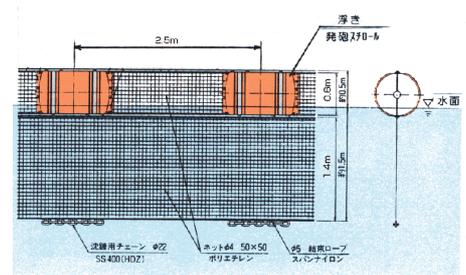
米俵大の物体が列をなしている物の事ですが、オレンジ色の正体は、発砲スチロール製の「浮き」でして、その下に網が垂れ下がっています。それが今回紹介する「網場」です。

何でそんな網が湖面にあるのかというと、雨が降ると(特に梅雨時期)ダム湖の上流から水がドンドン流れ出て、その際に山の折れた木や枝も一緒に流されます。こうして集まった木「流木」が、ダム湖に設置された水門や観測機器にぶつかって壊さない様に、また三国川へ流れ出ない様に、受け止める役目をしています。

網場はダム湖を横断する形で3箇所を設置されていて、長いもので約400mあります。

網場の高さは2m、網目はタテ・ヨコとも5cm、網系の太さは4mmです。

また網場の中間には船が通り抜けられる様に、ドア式のゲートも備えています。



網場の概要図

ちなみに網場で受け止めた流木はどうなるのかというと、回収用の作業船にて拾い上げ、陸地に運搬されます。この流木は多い年で1500m<sup>3</sup>(25mプール3個分)がダム湖に集まった事があるんですよ。

さてさて、少し興味を持たれた方は「しゃくなげ湖まつり(毎年7月)」でのボートに乗って、じっくり見て下さいね。



流木を受け止めている網場



作業船での流木回収

④

# ダムの放流警報設備で、南魚沼市の避難情報を放送します!?

放流警報設備は、ダムから放流量を増加する際に、スピーカやサイレンを使って皆さんに警報をお伝えする設備で、三国川沿いには、ダム管理所を含めて全部で12箇所の警報所(警報局)が設置されています。特に出水期間(さらに雨の夜)には警報を発する機会が多くなるため、過去のダムっ湖には“お知らせ”のために何度か登場してもらっています。「放流警報設備」と聞いてピンとこない方は、ダムっ湖のバックナンバーを参照してみてください。

(過去の登場回数: 3回... 1回目: vol.6- 頁「放流警報設備って、なあに??」に初出演、  
2回目: vol.9- 頁「雨の夜」注釈 8に本当にチョイ出、  
3回目: 防災特集号- 頁「三国川ダム放流に伴うサイレン吹鳴のご案内」に主役で出演)



今回は、当管理所と南魚沼市との間で「三国川ダム放流警報設備による災害情報等の伝達支援に関する協定書」(以降、「協定書」)を締結しましたので、そのお知らせです。

「協定書」の内容は、災害が発生した場合、南魚沼市からの依頼によって、ダムの放流警報設備から、南魚沼市発令の避難情報を音声放送できるようにしたものです。(この場合、「こちらは南魚沼市災害対策本部です。…」と普段は聞き慣れない放送が続くことになります。)

南魚沼市が避難情報を住民の方に伝達する場合、広報車と地元のラジオ放送(FMゆきぐに76.2MHz)による情報提供の2つを基本的な手段として考慮されています。今回の協定は、それを補完するためのもので、放流警報所から音声放送が届く範囲は、ほぼ三国川沿いの地域に限られることとなりますが、皆さんの安全のために放流警報設備が活用されれば嬉しいですね。(本当は、そのような災害が発生しないことが一番望ましいですね。)

## 編集後記

先日、お菓子屋さん「ことう」の広告を眺めていたら、「しゃくなげ湖町」なるお菓子を発見!何やら「しゃくなげ湖町」は、秋からの新発売商品であり、「しゃくなげ湖をイメージし、形にもこだわりました。」と書かれており、興味津々!!  
という事で、お店に直行し購入してまいりました。購入後、まず「しゃくなげ湖町」をじっくりと観察!なるほど、確かにダムやダム湖が再現されているではありませんか。そして、いよいよ待望の実食です。一口バクリ「うまっ♥」、その後はパクパク食べてしまい、あっという間に無くなってしまいました。  
「しゃくなげ湖町」、大変おいしゅうございました。(編集部員 T)

## 編集・発行

国土交通省北陸地方整備局  
三国川ダム管理所

〒949-6741  
新潟県南魚沼市清水瀬 686-59  
TEL(025)774-3015  
FAX(025)774-3092  
http://www.hrrm.lit.go.jp/saguri/



シャッピー